輝け未来！

～卒業生からの熱きメッセージ～

大学受験を迎えるにあたって

東京大学　文科三類　佐伯　次朗

皆さんこんにちは。私は今年念願の志望校合格を果たし、真和の後輩である皆さんへのアドバイスとしてこの真和通信へ寄稿させていただくことになった訳ですが、ここではいわゆる勉強法といったものには触れないでおこうと思います。人に偉そうに語れるようなテクニックを持っていた訳でもないので。ということで、ここでは私の考える「受験に対する心構え」について書いていきます。「お前は本当に東大文科生か!?」と突っ込まれるほど稚拙な文章になるとは思いますが、どうか最後まで読んでいただけたら幸いです。

さて、受験に対する心構えの一つ目としてまず挙げるのは、自分の志望校・学部を決定したら、まずそこの合格者最低点と受験科目の配点を把握することです。これは心構えというよりは受験生の常識と言える感じもしますが、意外と実践していない人も多いようです（かく言う私も現役時はその一人でしたが）。そもそもそういった最低点や配点を知らずに受験勉強を始めるなぞ至極無謀なことであるなら生身で範馬勇次郎に戦いを挑むようなものです（バキを知らない人ごめんなさい笑）。自分が超えるべき点数の目安や、各教科の勉強にかけるパワーバランスの比重が分からないまま勉強するわけですから。そのような状態で勉強を続けても、学力は確かに向上するかも知れませんが志望校に合格する力は身に付きません。逆に言えば、それらのポイントをしっかり意識することで初めて志望校に合わせた明確な学習プランを立て、合理的に受験勉強に取り組むことが可能になると言えます。

次に大切なのは、「負けず嫌い」な人間になることです。ここで言う「負けず嫌い」とは、たとえ模試での判定が悪かったりして自分の思うような結果が出せなくても、そこでへこむのではなく「なにくそ!!」と思えるようになることです。だいいち、失敗してへこんでばかりいても何にもなりません。それよりも失敗の原因を冷静に分析し、それをふまえて次に向けて努力することの方が何倍も有益です。実践してみようとするとそれ難しいことかもしれませんが、このような「過去を振り返って未来に生かす」力というのは受験以外でも非常に重要になってくると思うのでぜひとも身に付けて下さい。

そして受験への心構えとして私がもう一つ挙げるのが、感謝の心を持って勉強することです。私達はたった一人のなぜ状態で勉強をしているのではありません。実際に勉強するのは自分ですが、それも親の支えや先生方の御指導、また周りの友達との励まし合いなど様々な力によって可能となっているのです。「自分がこうして勉強できるのもいろんな人の力のおかげだ」と常に感謝の気持ちを忘れずにいることはモチベーションの維持につながるし、苦しい時の中で自分を奮い立たせる力の源にもなります。

最後に、皆さんは大学受験をする意義は一体何だと思いますか？自分の行きたい大学に進むため？もちろんそれもあるでしょうが、私はもっと重要な意義があると思います。それは、「自分の超えるべき目標を設定し、その突破に向けて最大限努力する力を養う」ことです。この力はこの先の人生で絶えず必要になってくるものであり、大学受験はそれを養う最初のチャンスだと思います。なので皆さん、どうか一生懸命努力して下さい。努力して努力して合格を勝ち取ったとき、皆さんはきっと自分自身の成長を感じることができるはずです。私はそれを願ってやみません。

本当に最後となりましたが、これまで自分を支えて下さった全ての方々に感謝します。ありがとうございました。

受験勉強を振り返って

一橋大学　商学部　宮崎　喜郎

皆さん、こんにちは。今まで自分が読んできた真和通信に原稿を書かせていただくことになり、とても光栄に思っています。ここでは、自分の受験生活を振り返って思ったことを書いてみます。少しでも参考にしていただけたら嬉しいです。

○模試について

高三生の皆さんはこれから たくさんの模試を受けることになると思います。これを活用しない手はありません。まずはやり直しをその日のうちに終わらせましょう。先延ばしにしているとだんだんやる気を失って結局やりません。慣れるまではかなり大変だと思いますが頑張りましょう。そしてできれば分からなかった問題を書くノートを作るといいと思います。特に英語の発音や文法、国語の言葉の問題は似たようなものが多いのでやってみてください。

○部活について

部活をやっている皆さん、お疲れさまです。総体も近づき必死で頑張っているところだと思います。部活を続けることが受験でマイナスだと考える人がいるかもしれませんが、それは違います。部活も勉強のためにやめると部活に対して未練が残るかもしれないし、部活を最後までやり遂げたという自信がつくし、完全燃焼できるのので、むしろプラスになると思います。

部活をやっていない皆さんは他の人と差をつけるチャンスです。今のうちから英単語や数学をやっていれば将来やるべきことが減り、少しは楽になると思います。

○学校を大事にする

今までにもたくさんの先輩がこのことを書いていらっしゃいますが、僕も重要なことだと思います。安易に塾や予備校に頼りすぎると宿題などで共倒れになってしまいます。そうなっては意味がないので、学校にしぼって授業も完璧に理解するようにしたほうがいいと思います。真和の先生方は質問に丁寧に答えてくださいますし、個別試験の添削もしますし、個別試験のかも全部タダです。同じことを塾や予備校ですれば月に何万もお金がかかります。学校先生、僕を見捨てずに英語の添削をしてくださったH先生、早くから国語の添削をしてくださったM先生、三年間担任をしていただき、数学の勉強のためにマックにまで連れていってくださったN先生、楽しい時間を過ごさせていただいたテニス部と二組の皆さんには本当に感謝しています。読みにくい文章になってしまいましたが、最後まで読んでいただきありがとうございました。

○自分の実力を出しきる

試験などで自分の実力の二〇〇とか三〇〇パーセントの結果を出そうとする人がいますが、不可能です。気負いすぎて実力の半分も出せなかった、ということになりかねません。実力を一〇〇パーセント出しきれればいい、という考え方のほうが気負いもなく、ベストな状態で臨めると思います。

いろんなことを書きましたが、絶対に合格したいという気持ちが何よりも重要です。この気持ちを持ち続ければ受験を乗り越えられます。

最後になりましたが、世界史と部活でお世話になったY先生、僕を見捨てずに英語の添削をしてくださったH先生、早くから国語の添削をしてくださったM先生、三年間担任をしていただき、数学の勉強のためにマックにまで連れていってくださったN先生、楽しい時間を過ごさせていただいたテニス部と二組の皆さんには本当に感謝しています。読みにくい文章になってしまいましたが、最後まで読んでいただきありがとうございました。

「思考せよ」

京都大学　工学部　畑中　大輝

最初に、「自分は天才だ」と思っている人はこの文章を読まないことをオススメします。なぜなら「凡人」である私の文章を読んでも得られるものは何もなく、時間の無駄だからです。よってそれ以外の人で「仕方ない。読んでやるか」と思った人は私のこの稚拙な文章を読んでいただけると幸いです。

これから全ての人に共通して言える、勉強の仕方（特に最も多くの人が苦労する数学）について綴っていこうと思います。皆さんは初見の問題に出会った時、何分間ぐらい粘って考えますか。五分くらい考えてすぐ答えを見て理解し、次の問題に移る人、一時間くらい考えてみる人、三時間くらい考えてみる人、色々いると思います。しかし理想は「解けるまで何時間でも何日でも考える」ことです。もちろん基本的な公式（教科書に載っている程度）を覚えていることは前提です。故に授業を大切にしましょう。大切なのは、頭の中で色々と試行錯誤することであるかを知ったのは浪人してからでした。いわゆる「数学のできる人」はこの過程を間違いなく経ています。これを繰り返していくうちに思考が鍛錬され、問題を解くスピードも上がっていきます。私は、例えば六時間考えてみて結局解けなかった場合と、答えをすぐ見て理解し十問こなす場合では、前者の方がはるかに価値があることだと思います。他の教科の勉強もあるので、そこらへんは自分で考えて勉強時間を調節して下さい。とにかく「思考」して下さい。こういう勉強をしている人が現役で、東大・京大・国公立大学医学部に合格していくのでしょう。以上のような勉強の仕方を強要するつもりはありませんが、誰にでも当てはまる勉強法を紹介したつもりです。少なくとも京大に合格する程度の数学力はつきます。それ以上の偏差値の大学や学部を目指している人は、先に示した勉強法を徹底して下さい。私の周りでその様な大学に合格した人は例外なく先の勉強法を実践しています。

他にも色々書きたいことがありますが、上手く書けないのでこの程度で勘弁して下さい。

皆さんの御健闘を祈ってます。

『読んでくれ、一生懸命書いたから』

九州大学　歯学部　古庄　克宏

在校生の皆さん、こんにちは。卒業してから一ヶ月も経つのに原稿をバタバタ書いています。僕の言葉が果たしてみなさんにとってアドバイスとなるかわかりませんが、学校生活を通しての経験と感想について書いていきたいと思います。

僕の場合、学校の先生方以外にも僕を大きく支えてくれた存在があります。それは吹奏楽部の存在です。僕は部活動を通して多くの精神性を学び、自己変革をすることができました。僕が部活と出会ったのは中学三年の時でした。当時、公民の授業を教えに来られた先生が吹奏楽部の顧問の先生で、楽器などほとんど興味のなかった僕ですが、その人間性にひかれ入部することを決意しました。今になって思えば、吹奏楽部に入部したことが僕の人生を大きく変えたといっても過言ではありません。

三年間部活と勉強を両立し「頑張ること」ができましたが、この三年間で学んだ特に印象深い考え方が三つあるので、ここで紹介したいと思います。

一つ目は、「「やりたいこと」のみならず「やらなければならないこと」も」ということです。僕の場合、「やりたいこと」は当然部活動であり、「やらなければならないこと」は勉強です。部活動だけに集中する学校生活は、学生の本分をないがしろにしており、好ましくありません。しかし、勉強だけを頑張る三年間というのも、集中力にも当然個人差があり、三年間継続できるはずありません。むしろ、「やりたいこと」と「やらなければならないこと」を明確に区別し、前者を将来奪われないために、今その時、後者もきちんと頑張っておくのです。この考えのもと、僕は三年間両者をともに一生懸命頑張ることができました。おまけに今、目標を勝ち得ることができ、その喜びも一際素晴らしいものとなりました。在校生の皆さんにも是非、この考えのもと達成感を味わっていただけたら、と思います。

二つ目は、「自分の狭い経験の範囲内で不可能と決めつけない」というものです。「部活と勉強の両立は不可能かも」といった考え方を持つ人もいますが、こうした考えは自分の過去を基準としたこれからの未来に対する悲観的なイメージから生まれるものです。不可能と自分で決めつけることは、潜在的に自分の可能性を否定するということなのです。自分で決めたものを一つ見つけましょう。たった一度の高校生活、もっと欲張りになりましょう。時間を他に求めるな!!作れ!!　意味は自分で考えて下さい。

最後に僕を支えてくれた先生方、友人達、そして部活の後輩達に感謝の意を表して終わらせていただきます。また合宿行きます。

三つ目は「常に感謝の気持ちを忘れない」ということです。これは当然のことのようにみえますが、意外と見過ごされることではないでしょうか。私達は決して一人では生きていけません。学校内においては先生方や友人達、そして部活の仲間、家庭内では両親兄弟と、僕達は実に様々な人々から支えられ、恩恵を受けています。当たり前のようで見過ごしやすい、こうした周りの方々への感謝の気持ちこそが、最終的に切実な結果を生み出す原動力ではないでしょうか。

高校三年間を振り返って、大学受験に向けての学問のみならず、以上のような精神性を学ぶことのできる環境に所属していて、僕はとても幸せだったと思います。僕は部活動に入って、自分の信じるものを見つけることが出来ました。またこれから社会に出て行く自分に一生の思い出と仲間を与えてくれました。皆さんも何でもいいですから、信じるものを一つ見つけましょう。

後輩へのアドバイス

九州大学　法学部　迫　哲也

真和の皆さん、こんにちは。今回ここに書かせていただけることを大変光栄に思います。さて、私は具体的な勉強法を述べるつもりはありません。人には、それぞれ自分に適した勉強法があるからです。従って、ここでは受験勉強をしていくなかで大切だと感じたことを述べていこうと思います。

まず、明確な「目標」を設定すること。「夢」という言葉はあまり好きではないので私は「目標」という言葉の方をよく用います。目標を設定し、そこから客観的に自己を見つめることで、達成するためには何をすればよいのか、自分には何が足りないのかが自然と見えてくるようになります。そして、ただ漫然と毎日の授業を消化するのではなく、自ら積極的に勉強できるようになるはずです。

次に、自分に自信を持つこと。自分のことを過信したり調子に乗れ、というわけではありません。向上心を持ち、現在の自分の成績に満足しないことはとても大切です。ただし、それが度を超えてもいけないということです。皆さんは「どうせ自分は……」と「自分は頭悪いから……」などと考えてはいないでしょうか。勉強だけでなく全ての分野において言えることですが、自分に自信が持てない人は良い結果を残すことはできません。つまり、自信が持てるまで努力した人が良い結果を得られるはずだと私は考えています。

今までは日頃の姿勢について述べてきましたが、ここからは実際に試験を受ける際の心構えについて述べていきたいと思います。

まずは、自己ベストを目指すこと。確かに受験では他人より一点でも多く点数を取れた人が合格します。しかし、試験会場で他人をあまり意識しすぎてしまうと、自分より頭が良く見えたりして焦りが生じ、自分の実力が発揮できなくなる、ということになりかねません。そこで、私はセンター試験の際には、それまでに受けてきた模試での自己ベストを超えることだけを意識しました。その結果、数学で平均点を下回ったにも関わらず、自己ベストを更新し、なんとか目標点に届きました。皆さんも試験の時は自己ベストを目指すことに集中してはどうでしょう。

次に、平常心で受けること。これはよく言われることですが、自分が受験して、改めて平常心でいることの大切さを知りました。試験の時は緊張しすぎてもダメですし、また張り切りすぎてもダメです。心の中で鼻唄を唄うくらいのテンションで（本当に唄わないようにと）受けるのが理想的です。

以上、あくまで私の経験に基づくものですが、メンタル面におけるアドバイスばかりさせていただきました。受験という長丁場を乗り切るためにはメンタル面が大切だと身をもって感じましたので、皆さんも大切にしておいて損はないと思います。最後に、付け加えとして皆さんに言いたいことがあります。

まず、真面目に勉強を頑張って下さい。当然のことですが、良い結果は頑張った人にしか訪れません。稀に、あまり頑張らずに目標を達成する人がいますが、そういう人は妥協したか、もしくは生まれつき頭が良いというだけです。皆さんはどうか、努力を怠り、真面目に頑張ることをしないと考えるような人間にはならないで下さい。そして、友達を大切にして下さい。私も真和で多くの友達ができました。その中でも、野球部の友達とは共に頑張り、励まし合ってきました。彼らがいたから私は合格できたのだと思います。

これで私からのアドバイスは終わりにさせていただきます。私は文章を書くのが苦手なので読みづらかったと思います。最後まで読んでいただき、本当にありがとうございました。これから受験を迎える皆さん、頑張って下さい。

伝えたいこと

九州大学　工学部電気情報工学科　原　大智

皆さん、こんにちは。僕の文章に興味を持っていただきありがとうございます。僕は、大学受験を考えている人たちに自分なりのアドバイスをいくつかしたいと思います。このアドバイスが皆さんにしようかと悩んでいると、勉強に身が入らないと思います。それと、友達に志望校を聞かれたら、素直に答えましょう。また、自分で言い回ってもいいです。皆さんに言えば後には引けない。自分自身にプレッシャーをかけて「自分は絶対受かる！」と、自信を持って努力して下さい。きっと苦しい勉強もがんばれるはずです。

二つ目は、生活リズムを整えることです。僕は、一日平均七時間は寝てました。寝すぎです（笑）。睡魔に耐えられませんでした。でも、その代わり寝る時間と起きる時間は毎日統一して、自分がギリギリがんばれる範囲で起きて、勉強していました。だから、昼間もあまり眠たくなかったし、集中力も持続できるようになりました。始めはきついけれど、慣れれば楽勝です。だから、生活リズムは整えるべきです。中には、自分はあまり寝なくても平気だという人もいますし、僕のようにいっぱい寝ないとダメだという人もいます。人それぞれです。とにかく無理をせずに努力することが大切です。

三つ目は、学校の授業はできるだけ出るということです。予備校で、バリバリ一人で自習するよりも、学校で授業を受けているほうが楽しいと思います。学校の授業だけで足りない部分は、放課後にがんばればいいと思います。焦らずコツコツ勉強していれば、大丈夫だと思います。三年の後半になると、それぞれ自分の勉強しなくてはいけない部分がハッキリ見えてくる年になります。そうなれば、授業のいらない部分は聞かなくてもいいと思います。それぞれ自分の弱点があるはずだから、それを全てカバーするような授業はできないと思います。だけど、学校に来ないのは、間違っていると思います。とにかく学校には行って、自分なりに工夫して勉強することが大切だと思います。

四つ目は、志望校の過去問を解くということです。それも「見る」だけでなく「解く」ことです。全然解けなくても大丈夫です。解くことで、自分の弱点を見定め、また志望校の出題傾向を知ることで、今後の勉強計画を立てることが大切です。

最後まで読んでいただいてありがとうございます。また、「こんなの全然役に立たねーよ」と思った方々、本当にすみません。忘れて下さい。

三年間真和での生活でお世話になった先生方、友達、皆さんに感謝したいです。ありがとうございました。

授業を大事に

九州大学　工学部物質科学工学科　福島　利弘

作文、と聞くといつも期限までに提出せず、先生に怒られていたことが思い浮かびます。そんな僕が提出期限を守るであろう初めての作文なのでさらっとでも目を通してもらえたら嬉しいです。受験勉強で大事だと思うことを書きます。

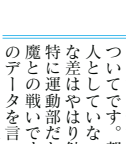
まず一番てっとり早く成績を上げる方法は先生方を信用して素直に授業を受けることです。真和の先生方にはベテランの方ものすごくたくさんいらっしゃいます。長年受験問題について研究してきた先生方がつくる定期テストの問題で点数がとれるということは本番でも点がとれるということです。そして当たり前のことですが定期テストは授業で使われた教材や板書されたこと、先生の話から出題されます。だから授業をきっちり受けることは合格に直結していると言えます。塾や参考書でがちがちに勉強するよりは楽です。さすがに東大や京大、医系や意地悪な問題を出す私立では授業以上のことが求められるかもしれませんけど。

次に家庭学習ですが、まず部屋はきれいにしておきましょう。やる気がでます。あと時々その日の授業で学んだことをちょっと思い出すことも大切です。テレビのCMのときやお風呂のとき等にさらっと思い出しましょう。ここでどうしても思い出せないことがあって、時間をかけてもわからなかったら机に確認しに行きましょう。深く考えれば考えるほどわかったときすっきりするし記憶にも残りますよ。

あとひとつだけアドバイスを書かせてください。目指すかもしれない大学のオープンキャンパスは多少遠くても絶対行った方がいいです。僕は高三の夏になってもまだふらふらしていて志望大学が決まっていませんでした。そんなときに友達に九大のオープンキャンパスに連れていってもらい、大学の規模と活気、特に工学部のキャンパスのかっこよさと大きさに感動しました。それと田舎者なので福岡の街にもちょっとだけ感動して「この大学にいきたい！」と思い目標が定まりました。目標が定まるとやる気も出るしやっぱりオープンキャンパスはいくべきです。

以上、なんだか幼稚な文章になってしまいましたが精一杯書いたので勘弁してください。

僕は三年間真和で過ごしましたが真和に受かることができたみなさんならどこの大学でも合格する才能があるはずです。あとはそれを上手に伸ばすだけです（笑）。僕は受験生の名言ですが、みなさんの成功を心から祈ってます。



思い詰めないこと

熊本大学　理学部　河村　沙良

合格体験記を、と言われても、正直なところピンと来ない。だからこれはありのままに記録であり、あまりアドバイスにはならないだろうと思う。

高校三年間を通して考えてみても、私はあまり「受かるための勉強」をした覚えがない。日々の学習にもムラがあり、科目によっても様々だった。

そうなると自然に「短所を補う学習」から「長所を更に伸ばす学習」となっていった。しかし、私の場合はこれが結果的に功を奏することとなった。

勘違いしないで欲しいのだが、何もし苦手をそのままにしていいと言っているのではない。苦手を克服することはとても重要だし、そちらの方が大学に入学してからも苦いい思いをせずに済む。ただ、その克服のために躍起になって、色々と疲れているのであれば、少し考え方を変えてみるのもいいかもしれない。

受験は楽しむものだと私は思っている。確かに緊張や不安で一杯だろうが、そこで演技でも楽しんでみる。そうすれば心にも余裕が生まれ、周囲を見回すことが出来るようになる。

そのためにも、場数は多く踏んでいた方がいい。人より多く場数をこなしたというのは、それだけで大きな自信になる。

あとは息抜きになるものだろうか。自慢じゃないが私は受験会場に漫画を持っていった人間である。周囲へのプレッシャーでもあったが、主に自分がリラックスするためだ。

日常生活でも、息抜きというのはとても大切なものだった。精神的な浮き沈みが激しく、どうしようもないくらいに追い詰められた時でも、例えば友人と下らない話で騒いだりだとか、そんな下らないことで随分と救われたものである。常に気を張っていれば、身も心もすぐにダメになってしまう。息抜きをするための、いわば「逃げ場」のようなものがあってもいいのではないか。

大学入試というのは今後の人生を決める離れて大きな事柄に思えるかもしれない。しかし、合格しようがしまいが日常は続いていくし、そういう意味では、入試は一つの通過点に過ぎない。余りそればかりを見詰め過ぎずに、先の事まで考える余裕を持って受験に臨んでほしい。

「HOW TO 受験」

鹿児島大学　医学部　小島　範大

毎年発行される真和通信に載る、この受験の体験記は僕にとって憧れのものでした。だから今こうやってその原稿を書かせていただいて、とても嬉しいです。いろいろと在校生の皆さんに伝えたいことがあるのですが、僕は国語が苦手であまり良い文が書けないかもしれませんが、すいません。

さて、各教科の勉強の仕方や具体的な勉強法などは、真和通信を依頼された他の人達に任せるとして（笑）僕は受験というものを様々な角度から見ていこうと思います。

まずは部活と勉強のことについて。部活をしている人と、していない人との圧倒的な差はやはり勉強時間です。特に運動部だと、帰宅後は睡魔との戦いです。僕のクラスのデータを言いますと、部活をしていた人の九割が浪人をしました。僕自身もバドミントン部のキャプテンをしていたのでこの中の一人です。部活と勉強を両立させた、つまり文武両道は、かなりの体力、精神力、忍耐力が必要です。文武両道を目標に掲げる人が多いですが、そう簡単にできるものではないということを頭に入れておいて下さい。部活をしている人は、これを読んで「俺は現役で合格した一割の人間の中に入るんだ！」と奮起してくれれば嬉しいです。

さて次はプレッシャーというものを考えてみます。プレッシャーは、強すぎてはいけませんが、多少あった方が勉強もはかどります。ここで、一つ自己流プレッシャーのかけ方を紹介します。これは、勉強しなければいけないのに、どうしてもテレビを見てしまったり携帯をいじってしまったりする人にオススメです。その方法は、というと…「神だのみ」です。さて一体、神様仏様に何をお願いするのか。答えは、「勉強するので合格させて下さい！」ではなくて、「もしテレビを見たら、俺を絶対不合格にして下さい！」です。こう願うことによって、合格を願った時よりも緊迫感が得られ、勉強がはかどるかもしれません。僕はこうやって自分を追い込んで勉強してきました。一度お試しあれ。

勉強法に関しては他の人に任せると言ったものの、一つだけ覚えておいてほしいことがあります。それは「添削をしてもらうことはとても重要だ」ということです。特に英作文に関しては、模範解答と自分の解答が一致することは、まずないので、自分の英文のクセや間違いを先生に指摘してもらうことは大切なことです。英語の先生に添削指導をお願いすれば、真和の先生達なら喜んでしてくれると思います。ですよね？（笑）

さてそろそろスペースが無くなってきたので最後に細々としたことを言います。これは受験に限ったことではないですが、「健康」と「友達」は非常に大切です。健康に関しては言うまでもありませんが、僕が浪人をする上で、友達の存在はとてもありがたかったです。精神的にも体力的にも辛い浪人生活を乗り越えられたのは友達のおかげです。皆さんも周りの友達と、互いに励まし合い、競い合って成長していって下さい。

同じ真和高校の卒業生として、後輩の皆さんには、是非がんばってもらいたいです。一生懸命本気で努力したあとの合格は、人生最大の喜びです。どうかこの喜びを味わってもらいたいです。

最後になりましたが、僕の高校時代、浪人時代を最高のものにしてくれた、先生方、友達、家族、そしてバドミントン部のみんな、本当にありがとうございました。

特技を活かす

早稲田大学　政治経済学部　木村　桜子

真和の皆さんこんにちは。私はほとんどの方と違い、AO入試で合格が決まり、また一年多く勉強をして大学生になった者という立場から、この文章を書かせて頂きたいと思います。

私は高校時代、大好きな書道に打ち込みました。全国的な展覧会で特別賞を頂くことが何度かあり予備校の先生のアドバイスもあって、AO入試受験を決めました。

AO入試のメリットは、学力だけでなく、人物・意欲なども見る多面的・総合的評価ですので、自分の特技や特別活動を活かせること、そして志望大学への合格のチャンスが増えることです。

AO入試受験にあたって、大切なことが三つあります。

一つ目は、「世の中のいろいろなことに興味を持つこと」です。新聞、テレビなどのニュースやコラムを読み、時事問題に触れるのはもちろんのこと、自分が志望する学部に関連するもの、自分が興味を持っているものに関して幅広い知識を身に付けることが不可欠です。私は政治経済学部を受験しましたので、時事問題の学習に、「新聞ダイジェスト」という本を使いました。この本は最新の時事用題・用語についてデータを用いた詳しい解説がなされており、面接試験の例題やポイントも掲載されていて、とても重宝しました。また、熊本が抱える問題についても知っておく必要があります。私は「こうのとりのゆりかご」や「ハンセン病」、「水俣病」についての本を読み、知識を深めておきました。

二つ目は、「自分の考えを持ち言葉にする力をつけること」です。AO入試の試験形態は、大学ごとによって異なりますが、主な流れとして、志望理由書、小論文、面接試験があります。大学によっては受験生に対して、グループディスカッションを課すこともあります。受験してみてAO入試では自分の考えを明確に持ち、それを大学の試験官に的確に伝える力を持つことが大切だと感じました。その力を身につけるためには、様々なことに対して問題意識を持つことだと思います。例えば、テレビを見るとキャスターのコメント、新聞を読む社説や読者の声といったように、様々な考えに触れることができますが、それをただ聞いているだけ、賛同するだけでなく、「私だったらこの問題についてはこう考える」と、自分なりの考えを持つことで、問題意識を育てていくことができると思います。常に様々なことに挑戦していただきたいと思います。そのためにアンテナを張り、いろんな考え方を吸収し、自分の考えに取り入れていってください。

三つ目は、「一般入試でも合格する学力をつけること」です。AO入試は一般入試と全く異なる対策を必要とするので受験生に対する負担も大きく、何が起こるか分からないという面も持っています。また万が一不合格となった場合は総合評価ですので、自分の全てを否定されたようなひどいショックを受けます。AO入試に力を入れすぎたり、頼りきった学習スタイルは危険です。一般入試でも十分合格できる学力を身につけるという目的を見失わないで頂きたいと思います。

今、高校時代を振り返り、真和高校は私にたくさんのチャンスを与えてくださいました。高校時代にしかできないことに挑戦させてもらえる学校でした。このようなチャンスは、真和に在学されている皆さんにも必ずあります。どうか自分の可能性を信じて様々なことに挑戦していただきたいと思います。そして、志望大学への合格のチャンスを広げていってください。皆さんの健闘を心から祈っています。

合格までの諸々の事

筑波大学　情報学部情報科学類　徐　露瑋

真和高校の皆様、初めまして。引越しの準備などと並行してこの文章を書かせてもらいました。今回は、勉強法以外にも、入試当日の様子などを書こうと思います。

まず、勉強法ですが、文系教科のことはほかの人に任せて、ここでは理系教科について書きます。理系教科で一番大事な事は、内容を理解することなので、とにかく先生の話は、全て聞くようにして、何故そうなるのかをしっかりと考えるようにし、疑問や、納得出来ない事があれば、授業後にすぐに先生に質問するようにしました。また、考え方が不鮮明な問題や、全く閃かない問題に遭遇したときも、先生としっかりと議論するようにしました。また、友人などに、彼らのわからない所を教えることも、自分の理解度を測る、いいものさしになったのではないかと思います。こういう理解面での努力を要する理系教科では、一夜漬けはもっての外で、これでは、定期テストはしのげても、入試はどうにもなりません。

そして、小さい頃から、何よりも重視したことは、しっかりと睡眠をとることです。特に、テスト前などは、暗記教科の確認作業だけして、八時間以上の睡眠をとる事を心掛けました。理系の人間にとって、睡眠をとるということは、次の日の頭の回転を鈍らせないためにも必要な事なので、絶対にとるようにしてください。また、最近は、学校で寝て家に帰ってから夜中に勉強を頑張る昼夜逆転型の人間がかなりいるようなので、それだけは。絶対にしないようにして下さい。入試も含めてテストというのは、全て日中に行われており、テストに中に眠くなるとどうしようもなくなります。また、何よりも、学校の先生の貴重な授業を聞けない大きな損失が出てしまいます（まぁこれはかりは、真和にいるすばらしい先生に巡り合えなければどうしようもないことですが…）。

では、勉強の事はこれ位にして、入試当日の話に移りたいと思います。

先にも書いたように、当然、前夜は、暗記すべき英文法の確認だけして、当日の数学と理科で大量点を取るために、さっさと寝るようにしました。当日の、試験会場に向かう電車の中で、参考書（物理）を取り出してはパラパラめくるだけで戻し、戻しては、また別の（これまた物理）を取り出しては同じことをする情緒不安定な方を見掛けたのですが、こういうことをしてはイケマセン。テスト中に混乱します。というより、こういう状態に陥らないように、目頭から、内容をしっかりと理解すべきです。公式をど忘れしても、何とか作り出せます。そして、受験する教室は、十人近くが軽く入れるくらいとても広く、答案を配ったり回収したりする先生がたったの二人だったりする大学生になったりする。三十分くらいしか休めません。その間に如何に次の教科のために、糖分を効率よく補給するかが理系での合格の鍵になってくるので、とりあえずチョコレートを貪り、直前に頑張って復習している人達（直前に見ても何も頭に残らない上に、妙な混乱を招く原因になるのであしからず）を尻目に、仮眠を取るようにしました。そんなこんなで、あまりに、何かを深く考える（前の教科の失敗を引きずったり、成功理を喜んだり）暇も無く、入試が終わったので、当日は、意外と落ち着いて過ごす事が出来ました。

こんなしょうも無い僕の文章を読んで下さってどうもありがとうございました。何かの参考になれば嬉しい限りでございます。

夢叶う

早稲田大学　社会科学部　塚本　佳子

皆さん、こんにちは。私は、入学式に参加し、サークル勧誘の波にもまれ、科目登録を終わらせ、いよいよ明後日から授業だ！という状態でこの原稿を書いています。一浪して憧れの早稲田大学に入学したのですが、実際はもっとすごい大学だった！合格できてよかった！というのが、今の正直な気持ちです。現役で第一志望の大学に進むのが一番ですが、もし滑り止めしか合格できなかったら…辛い受験生活から早く解放されてずっと勉強したいという気持ちもわかりますが、もう一年かけて夢を追いかけてみてください。この大学に行きたい！そう思って勉強できた瞬間、そこへ入学することを夢と呼んでもいいのだと、そして、それにもう一年費やす意味が十分にあったと、今思います。

ここからは真和通信らしく、部活と志望校の決定について書いていこうと思います。

まず部活ですが、できるなら皆さんに入部していただいて、総体まで続けてほしいと思います。確かに、勉強する時間が減るのは事実です。しかし、だからといって入学したての帰宅部の人が家でずっと勉強しているわけではないと思うのです。私が弓道部に入ると決めた時、両立の面で担任の先生に難色を示されて迷いましたが、入ってよかったと思っています。部活をすることで、家に帰ってからの時間の使い方に無駄は許されなくなり、高一の時から一日のタイムスケジュールを組まざるを得ない状態になって、予習復習の時間を確保した生活習慣が出来上がります。また、先輩とつながりが持てるのは大きなメリットだと思います。ちなみに私は、先輩に勉強法を教えてもらったこともありますし、参考書をいただいたこともあります。ここで、なぜ総体まで続けてほしいと思ったのかですが、個人的な意見でありますので、そう思いながら読み進めてください。私は、受験を見越して高三になったら部活をやめようか考えてみました。それまで部活をしていた時間を完全に勉強に切り替えることができるか…私は正直、不安でした。受験を終えて思ったのは、総体まで部活を続けていると、周りには早くに受験モードになっているのですから、どうしたって焦りが生まれます。これが良かったのではないかと思うのです。今だって、実は原稿締め切りの直前で、真夜中です。直前になればなるほど、寝る間を惜しんでもやりと生まれ、現役時代勉強を頑張れた気がします。ここで大事なのは、浪人を意識しないことです。意識した瞬間に、現役時代の伸びは止まってしまいます。

次に志望校の決定ですが、高三の方の中には、もう私立に絞った方も、まだ内心迷っている方もいらっしゃると思います。一つ言えることは、迷っている時期には、勉強に身が入りきらないということです。しかし私が言いたいのは、とっととハッキリ決めてしまえ！というのではなく、迷っていなければいいということです。私の場合は、「早稲田は厳しいから、国立を目指す！けれど一応早稲田も受ける！」というものでした。周りには理解されなくても、自分なりに決まってしまえば、勉強していくにあたって芯がぶれてしまうことはなくなります。

最後になりましたが、三年間数学を厳しく教えてくださったI先生、高三の夏休みは追っかけのように授業に参加させてくださった英語科のK先生、そして真和時代にお世話になったすべての先生方、私のつたない文章を最後まで読んでくださったあなたに感謝します。ありがとうございました。

交通事故を乗り越えて

熊本県立大学　総合管理学科　宮﨑　雅大

ふと目を開くとそこはシェルターの中でした。外では家族が騒いでいましたが、私の意識はすぐに薄れてしまいました。これが私が高三の夏に九死に一生を得てこの世に蘇った際の最初の記憶です。

その後、私は入院生活を送りながら、リハビリを続けました。その際に心の支えとなったのが、やはり家族や担任だったI先生を始めとする真和の先生方、そしてクラスメートでした。

まず家族ですが、特に母は死に物狂いで私を看病してくれました。肉体的にも精神的にもボロボロだった私がここまで回復できたのは、何よりもまず母のおかげだととても感謝しています。

次に真和の先生方です。事故直前までI先生指導の下、熊大薬学部志望だった私ですが、事故後に勉強の記憶を全て失ってしまいました。そのため文系に転向した私を支えて下さった先生方にはとても感謝しています。今年無事に合格できたのは、「真和」という生徒一人一人の面倒見のよい学校に入ったからだと思っています。また、校長先生からも直筆の手紙をいただくなどとてもよくしていただきました。「真和」を母校にできて、とてもよかったです。

そして、最後になりましたが、クラスメートです。みんなは、受験勉強が忙しいにもかかわらず、頻繁にお見舞いに来てくれました。また、私を励ますとDVDや千羽鶴を作ったりお守りを持って来たりしてくれました。在校生のことが、どれほど私の心の支えとなったかは言うまでもありません。

以上の皆様の愛に支えられて、私は医療関係者の方々からも「奇跡」と言われるまでに回復することができ、県立大学合格を勝ち取ることができました。

この県大合格も、他ならぬ担任だったI先生の陰の力によるものでした。実は、県大の課題は「裁判員制度」についてだったのですが、私のクラスはI先生の提案により文化祭で「模擬裁判」を経験していたのです。だから「裁判員制度」の内容もよく知っていましたし、その他諸々の知識も持っていたおかげで大分楽に小論文を書き上げることができました。本当にI先生にはいくら感謝してもしきれません。I先生、本当にありがとうございました。

なんだか、在校生の方に贈るメッセージというよりも感謝の言葉ばかり書いていて、全然役に立たない文章だったような気もしますが、本当に私がここにあるのは「感謝」の一言に尽きるような気がします。今まで私を支えてきて下さった皆様、本当にありがとうございました。在校生のたりしてくれました方々への感謝の気持ちを忘れないで頑張って下さい。

平成十八年八月の交通事故から一年半余りが経ちました。

息子の文章は、他のOBの方々の輝かしい内容とは恐らく異質のものになっているのではないかと懸念しております。ただ、このような場を作っていただき恐縮するばかりでありますし、また、本人の自信にも繋がると感謝申し上げます。

息子の怪我は、ある時期から急速に回復したとはいいますものの、やっとページが一枚進んだというのが、親としての実感でございます。今後、新たな環境で新たな目標に向かって頑張ってほしいと願っているところでございます。

校長先生、教頭先生を始め、関係者の皆様、同級生には多くの暖かい心遣い、御支援をいただき感謝の気持ちで一杯です。とりわけ、担任のI先生には、家族のように暖かく見守っていただき、本当に感謝の言葉もございません。誠に有難うございました。意を尽しませんけれども御礼の言葉とさせていただきます。

（両親より）